

研究計画

1 研究主題

「わかる」「できる」喜びを味わわせる学習活動の充実

2 主題設定の理由

本校は、平成23年度から算数科を中心に授業改善に取り組み、5年目を迎える。「書いて考える授業」に「聴いてつなげる授業」の工夫を加え、全学年が問題解決型の授業を通して思考力・判断力・表現力を高める取組を進めてきた。

昨年度は、研究主題を「『わかる』『できる』喜びを味わわせる学習活動の充実」とし45分、完結型の授業を目指し取組を進めてきた。しかし、学習内容によっては、60分を要するものもあり、朝の学習の時間に課題把握をしておいたり、「たしかめ」や「振り返り」を終わりの会の時間に行うなどの方法も取り入れた。

本年度は、今までのように、一時間の学びの成果を見取ることに加えて、単元全体を見通し、児童にとって学びの壁となるところを見極め、それを乗り越え、ねらいを達成させることができる指導計画を立てることを大切にしたいと考えた。重点を置くところは、レディネスチェックと学びの確かめである。レディネスチェックにより、既習事項がどの程度身についているのか児童の実態を把握することで、必要な場合は学び直しをしたり、基礎の定着を図ったりしてから単元に入るようにする。このことにより、学習内容の理解や自力解決力の向上にもつながると考えられる。学びを確かめるための工夫についても、その単元での習熟度がどの程度のものであるかを把握するために形成テストを作成し、誤答分析を行う。このことにより、指導の弱かった部分や児童の理解出来ていない部分をよりの確に補充することができ、次年度、同単元を指導する先生や上の学年で指導する先生に補充した内容をしっかりと引き継ぐようにしたい。

以上の取組を通して、本年度も【「わかる」「できる」喜びを味わわせる学習活動の充実】を図っていききたい。

3 研究内容

(1) 取組の継承

- ・書いて考え、聴いてつなげる授業
- ・一時間での学びの成果を見取る工夫

(2) 学び合いの場と思考力・判断力・表現力を育てる手立ての工夫

【学び合いの前提として】

- ・学び合いの素地をつくる（自他を認め合う学級作りと「求める授業像」）
- ・子どもの実態把握、基礎基本の定着（レディネステストの実施）
- ・基礎・基本の明確化（単元計画・ねらい・教材研究等）を行う
- ・子どもが本気で考えたい学習問題の設定の工夫

【学び合いを活性化するために】

- ・子どもに「求める授業像」を意識させる
- ・課題提示の工夫および課題を把握させるための工夫
- ・自力解決時における個別指導の工夫
- ・学習形態の工夫（引き出す・考えをまとめる・定着させる）
- ・他者の考えを学んでいく姿勢を重視する
- ・本時のねらいにせまる考えの取り上げ方の工夫
- ・考える視点を明確にする発問や指示を行う
- ・教師が適切な場が出る（誤答を含めた多様な考えの出し方の工夫）

【学びを確かめるために】

- ・1時間での学びの成果が実感できるたしかめ問題の工夫
- ・評価テストの誤答分析による指導方法の改善
- ・学習指導と家庭学習のリンク